

現代社会における生活の現状とスポーツの「楽しさ」について（Ⅱ）

～38年前の調査と比較して～

青柳 択実 （生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）

指導教員 菅井 京子

キーワード：現代社会，スポーツの楽しさ，健康志向

1. はじめに

新谷崇一は1974年に「国民生活の現状とスポーツの『楽しさ』について」日本体育学会大会号（25号）で、生活の現状とスポーツの楽しさの関係を明らかにしようとした。新谷は生活の現状とスポーツの楽しさについて、質問全18項目（全力、勝つ、かけひき、運、解放、飲食、賞状、日常から逃避、技術、苦しさ、フォーム、親友、仲間、ほめられる、応援、自然、冒険、スリルに関するもの）を用いて調査した。調査した回答を分類して【肉体を使用したりする競争的なもの】【精神的な解放感】【自己の鍛練】【人との接触】【自然との接触】【スリルを味わう】として考察した。新谷は、人々が日常生活ではできなくなってきたことをスポーツに求め、このことで楽しさを感じるとした。そして人々が求める楽しさを【肉体を使用したりする競争的なもの】【精神的な解放感】【自己の鍛練】【人との接触】と結論づけた。

この論文をもとに内土井雄太（2011年）は、新谷が調査した37年前と現在では生活の状況が変わってきているためスポーツに求める「楽しさ」も変わっていると新谷と同じ質問で調査した。そして内土井は、【肉体を使用したりする競争的なもの】【精神的な解放感】【自然との接触】とした。最近では、ジョギングやウォーキングなど、スポーツの実施状況が変化しているが、同じ質問でいいのかと疑問に感じた。

そこで本研究では、1970年代から注目され始めた健康スポーツを視野に入れ、38年前の新谷の調査と比較し、現代社会における生活の現状とスポーツの「楽しさ」について明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

青柳は新谷の用いた質問全18項目に新たに

健康に関する質問項目「健康が得られたこと」「体重が減ったこと」「生活習慣が改善されたこと」を加え、質問全21項目を用いて調査した。新たに加えた3つの質問項目を【健康的な志向】と新たに分類した。0市のK駅の駅前で質問紙を用いて調査した。15歳から24歳の男女各50人から回答を得た。

3. 結果と考察

青柳の調査結果からは、スポーツで楽しさを感じるものとして3つ挙げた。1つ目の【肉体を使用したりする競争的なもの】は、時代が進んだ現在でもほぼ8割もの人々が楽しいとした。2つ目の【健康的な志向】は、ほぼ7割もの人々が楽しいと答えた。具体的には表1に示したような回答を得た。3つ目の【自然との接触】では、現在は38年前より1割増（ほぼ5割）の結果となった。38年前と比べると自然が少なくなっているためであろう。

表1 【健康的な志向】の考察

【健康的な志向】	男	女
「健康が得られたこと」	78%	82%
「体重が減ったこと」	66%	86%
「生活習慣が改善されたこと」	70%	76%
「全力をつくしてやり遂げた満足感」	80%	66%
「解放感」	68%	60%

4. おわりに

時代が変わった現在では、スポーツの実施状況が大きく変化してきており、競技型スポーツだけでなく、人々が行うスポーツが変化し、人々が求めるスポーツも変化している。

引用・参考文献

新谷崇一，浅田隆夫，片岡睦夫（1974），国民生活の現状とスポーツの「楽しさ」について，日本体育学会大会号（25号）